

COMMUNICATION LETTER

博物館だより

2018.3 第 23 号
新潟市北区郷土博物館

〒950-3322
新潟市北区嘉山3452番地
TEL 025-386-1081
FAX 025-388-6290
museum.n@city.niigata.lg.jp



出品作品介绍

高松次郎「波の柱」

1974年、アルミニウム、マルチプルed.47/95、90.5×26.4×26.6cm、1981年収蔵
©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates.

東京藝術大学を卒業した1958年から、本格的に発表活動を開始した高松次郎(1936-1998、東京生まれ)は、赤瀬川原平、中西夏之と結成したハイレッド・センターの活動をはじめ、私たちの常識や固定観念に揺さぶりをかける‘反芸術的’な表現により、1960年代以降の代表的な美術家として、国際的に脚光を浴びました。

本来水面の高低運動である波の形を、垂直に立てたような「波の柱」は、見る人に新鮮な驚きを与えます。高松は、1963年頃から、実体のない‘影’だけを描いた絵画を制作していますが、この作品では、水面に映って揺らめく四角柱のゆがんだ像(影)を、立体作品(実在物)として提示しています。‘影’の絵画と同様に、現実の自然界に‘虚像’を出現させた高松の目的は、そうすることで、逆説的に実体

の‘不在’を私たちに意識させることにありました。

しかしながら、高松の仕掛けはそれにとどまりません。うねりながら上昇するかのようなエネルギーをはらむこの造形を、私たちは一方向から見ただけで、全体像を捉えたつもりになってしまいがちです。しかし、作品の周囲をまわってみると、波の形が変化するように、8つの異なる形が次々に現れます。周到に計画されたこの作品はまた、私たちの‘思いこみ’への挑戦なのです。

1980年代から高松次郎は、観念芸術的な表現としての‘影’と決別し、自分自身の影、つまり‘根源なるもの’の不在をつきとめようと、求心的な絵画探求を続けました。

(神田直子)

「所蔵作品公開」
美術のなかの自然展

6月17日まで開催しています！

地域の宝 郷土芸能の伝承にむけて

—「特色ある区づくり事業」と相乗して支援活動を拡大—

新潟市北区には新潟市指定無形民俗文化財8件をはじめ、多くの郷土芸能が受け継がれています。しかし、伝承が困難な団体等も発生しつつあります。

当館では、「北区文化財保護事業」の一つとして、市指定文化財の民俗芸能の公開を行っています。平成28年度からは、「特色ある区づくり事業」として指定文化財を含めた郷土の芸能を支援する活動を拡大しています。

今年度は、昨年度に引き続き、各保存団体の活動の紹介や課題等の解決に向けた「情報交換会」を開催しました。また、郷土芸能を広く地域の人々に知ってもらうための機会として、定例の「博物館まつり」での発表会のほかに、館外での出前公演を行いました。さらに、郷土芸能の記録映像の長期保存と活用を促進するために、ビデオをDVD化する作業を始めました。

当館は、今年、開館50周年を迎えます。この記念事業として、11月25日に、北区文化会館との共催により「北区郷土芸能発表会」を開催する予定です。どうぞご期待ください。



地域の伝統を受けつぐ子どもたち（内島見神楽）
（11月3日 博物館まつり）

【博物館まつり】郷土芸能発表会 11月3日



新崎伊佐弥神楽



高森いざや神楽



内沼の獅子舞



松浜太鼓

（詳細は、p.9の「5 北区文化財保護事業」と、p.10の「1 郷土芸能支援事業（特色ある区づくり事業）」をご覧ください。）

【館外事業】出前公演

新潟市立木崎小学校文化祭 10月28日



御山伊佐弥神楽

キテ・ミテ・キタク(JRA新潟競馬場) 11月23日



樽碓(演奏 尾山団地樽きち会)



竹の通りの神楽

常設展拡大企画 北区の水害展

新潟市北区とその周辺では、昭和41・42年に2年連続で大水害に襲われました。連続水害から半世紀がたったことから、本展では、記録写真や歴史資料、水害の記憶をもとに共同制作された絵画などを展示し、この水害を紹介しました。半世紀前の水害を体験した世代から貴重な体験談をうかがえた機会となり、また水害を知らない方々には地域の歴史の1コマを伝えていく機会となりました。

（「羽越水害復興50年記念事業」巡回パネル展と併催。詳細は、P.4「平成29年度のあゆみ①」をご覧ください。）



あれから50年 —写真が伝える水害—

平成15(2003)年の福島潟放水路の完成により、北区では大きな水害には遭わなくなりました。しかし、半世紀前、豪雨により現在の北区域に2年連続で大水害が襲いました。昭和41(1966)年7月の下越水害(7.17水害)と翌年(昭和42)年8月の羽越水害(8.28水害)です。

区域では、地盤の高い一部を残して、住宅・農地などに広域的な浸水被害が発生しました。写真①のように、特に福島潟の潟端の集落は、大きな被害が出ました。これは、北区が、福島潟を中心にすり鉢状のくぼんだ地形のため、水が溜まりやすく、一度溜まると自然排水できないことなどが原因です。そのため昔から、少しの雨でも水が溜まり、集中豪雨となれば、大きな被害をもたらしたのです。

写真②③は、北区松潟(西早通)の神社を撮影したものです。2枚とも右に社殿、左に鳥居があります。写真②は昭和41(1966)年の水害の時に、写真③は平成29(2017)年に撮影しました。写真②では、神社の手前で人が木舟に乗っています。水面は濁りに飲み込まれた田んぼです。この時、松潟の人々は船で救出され、濁川中学校などに避難しました。50年後(写真③)では、周りの木は大きくなり、水田は、減反政策により畑に変わっていました。時の移り変わりを感じるとともに、変わらない神社の姿に、復興に力を尽くした人々の姿を想像しました。

歳月の経過により、北区で起こった水害や地震などの災害を知らない世代が多くなってきていますが、当館では、今後も、北区の災害の歴史を伝えていくため、当時の写真や記録を収集していきます。これらの資料をお持ちの方は当館へ情報をお寄せください。

今も、私たちがより安全に暮らせるように福島潟の堤防工事が進んでいます。治水が進んだ現在の生活が、過去の度重なる被災のうえに成り立っていることを、本展を通して改めて感じていただけたなら幸いです。

(曾部珠世)

*北区役所だより(H29.5.21号)「ふるさと自然と文化」欄の掲載原稿を一部変更しました。



①白波を立てた水が集落を襲う 昭和41年 新島甲



②昭和41年水害時の松潟(西早通)の神明宮
一面が湖となった田んぼ 新潟市歴史文化課提供



③現在の神明宮 平成29年4月撮影

1 企画展等

- (1) 「羽越水害復興50年記念事業」巡回パネル展
 一併催 常設展拡大企画「北区の水害展」
 ・共催事業（主催：羽越水害復興50年記念事業実行委員会・新潟市北区郷土博物館）
 ・5/27（土）～7/1（土）
 ・入館者数 846 人
 ・新潟県提供の写真パネルで構成された巡回パネル展で羽越水害を紹介。あわせて開催した「北区の水害展」では、北区の水害の記録写真や行政文書のほか、当時、日本画家梁取幹雄氏が主宰していた図画教室の子どもたちと、地域の人たちが共同制作した「水難絵図」5部作（1967）を展示。また、旧豊栄町民が撮影・編集した記録フィルム（DVD）の放映も行い、災害を多角的に紹介した。（「北区の水害展」についてはP.3をご覧ください。）



羽越水害復興 50 年 巡回パネル展会場

- (2) 第34回菱湖会書展
 ・共催事業（主催：菱湖会・新潟市北区郷土博物館）
 ・7/13（木）～7/17（月）
 ・入館者数 457 人
 ・北区在住の書家小黒五稜氏主宰の書道グループ「菱湖会」との共催展。会員 17 人の作品 30 点を発表。



併催展「北区の水害展」で公開した「水難絵図」

- (3) 第20回松蔭賞書道展
 ・7/29（土）～8/27（日）
 ・入館者数 1,249 人
 ・郷土出身の書家弦巻松蔭にちなんで開催。書に親しむ機会づくりの一環として、市内の児童・生徒から課題作品を公募して選出した。今回は、特別に「第20回記念賞」を設定。入賞作品 227 点を展示。
 ・対象：新潟市内の小学校3年～中学生
 ・審査員：小黒五稜氏（新潟県書道協会顧問）
 岡村鉄琴氏（新潟大学教育学部教授）
 和泉哲章氏（新潟市立南浜中学校校長）
 伊豆名皓美氏（書道講師・新潟県美術家連盟会員）



第20回松蔭賞書道展表彰式 審査講評（小黒五稜氏）8/5

- ・参加校
 ・区内 … 小学校 13 校 中学校 7 校
 ・市内他区 … 小学校 1 校 中学校 2 校
 ・書道教室 … 7 校
 ・その他 … 個人出品
 ・出品点数（点）

小3	364	中1	369
小4	473	中2	11
小5	426	中3	33
小6	531	教室・個人	102
合計	2,309		



第20回松蔭賞書道展会場

- ・入賞者数
 - ・松蔭賞 7 人（各学年 1 人）
 - ・第20回記念賞 7 人（各学年 1 人）
 - ・優秀賞 14 人（各学年 2 人）
 - ・特選 70 人（各学年 10 人）
 - ・佳作 129 人（各学年 20 人程度）

- (4) 第11回新潟市北区こども科学展
 ・9/16（土）～9/24（日）
 ・入館者数 1,006 人
 ・新潟市北区の小中学校児童・生徒が夏休みに取り組んだ、創意工夫、探究心にあふれる作品を発表・展示した。最優秀賞3人、優秀賞13人を選出。
 ・対象：北区内の小・中学生
 ・審査員：佐藤文俊氏（新潟市立早通中学校校長）
 菊地順子氏（新潟市立濁川小学校校長）
 中山俊一郎（新潟市北区教育支援センター所長）
 佐々木勇（新潟市北区地域課長（副区長））
 頓所洋一（当館館長）



第11回新潟市北区こども科学展

- ・参加校 区内小学校 11 校
- ・出品点数（出品者数）…196 点（196 人）
 - 【模型の部】 …103 点（103 人）
 - 【標本の部】 …17 点（17 人）
 - 【発明工夫の部】 …24 点（24 人）
 - 【自然科学写真の部】 …52 点（52 人）



昭和のくらし展（ふるさと学習 笹山小学校3年生）12/7

- (5) 常設展拡大企画「昭和のくらし展 — 「食べる」の道具たち—」
 ・11/25（土）～H30.2/12（月）
 ・入館者数 1,091 人
 ・「昭和のくらし展」は、区内の小学校3年生の社会科「昔の道具とくらし」の学習に対応するため、28年度から開催。本展では、約60年前までに使われていた食にかかわる昔の道具（民俗資料）や写真の展示を通して、北区の昔のくらしの一端を紹介するとともに、現代とは違い、物が少なかった時代の人々の知恵や工夫を紹介した。



昭和のくらし展（手織り機の実演と体験）1/27

- 会期中の催し
 ①昔の遊びチャレンジコーナー
 ・土曜日開設（12/23、1/6・13・20・27、2/3・10）
 ②手織り機の実演と体験（1/27（土）、2/10（土））
 ・講師：葛塚縞手織りの会
 ・1/27（土）、参加者数 6 人
 ・2/10（土）、参加者数 6 人

- (6) 常設展拡大企画「一所蔵作品公開—美術のなかの自然展」
 ・H30.3/17（土）～6/17（日）（予定）
 ・「自然とはなにか」という問いを手がかりに、地域の人々



美術のなかの自然展 作品鑑賞会 3/18

の生と自然との関わりを提示する常設展示と関連づけた企画。現実の世界と表現された世界の違いに着目し、当館所蔵の絵画と立体作品により、作家独自の世界観と、作品として「表現された自然」について思い巡らしてもらうことを意図して開催。

○出品作家：川嶋宣彦、齋藤満栄、鈴木香雲、高橋清、高松次郎、月岡徳恵、長沢明、渡辺雪子

○作品鑑賞会
・3/18 (日)、参加者数 9人
・講師：神田直子

2 講座・教室、レファレンス等

(1) 歴史みに講座 (前期)

・北区の歴史や文化を学ぶ。

①古代の北区にタイムスリップ
・6/3 (土)、参加者数 20人
・講師：宮崎芳春氏 (当館前館長)

②古地図からみる北区
・6/10 (土)、参加者数 16人
・講師：杉本耕一氏 (当館協議会長)

(2) 歴史みに講座 (後期)

・北区の歴史や文化を学ぶ。

・共催事業 (主催：新潟市北区郷土博物館、共催：北宝隊・北区歴史文化研究会)

①碑に記された人々

・10/14 (土)、参加者数 20人
・会場：新潟市北区公民館
・講師：平田敬正氏 (北区歴史文化研究会長)

②北区の街道をたどる

・10/21 (土)、参加者数 24人
・講師：本間修一氏 (北宝隊代表)

③江戸時代の農民魂・水原代官追放事件

・10/28 (土)、参加者数 26人
・講師：杉本耕一氏 (当館協議会長)

(3) こども博物館

・見学・体験しながら北区の歴史と文化を学び、理解を深める。

①はくぶつかん体験コーナー

・特色ある区づくり事業「公共施設利用促進バス事業」に伴い開催。
・水書き習字、土器パズル、北区のお宝マップを活用した「北区パズル」、『学習ノート』を活用した「北区クイズ」、昔あそび (うなりごま・お手玉・折紙)
・夏休み中の水曜 (7/26、8/2、8/9、8/16、8/23)
・参加者数 延べ155人
・指導：頓所洋一、遠藤真理子、北宝隊、市民ガイド、



歴史みに講座「古地図からみる北区」6/10



歴史みに講座「北区の街道をたどる」10/21



はくぶつかん体験コーナー 7/26



はくぶつかん体験コーナー 8/23

佐藤ヒデ氏、佐藤正子氏、佐野洋子氏

②土器作り教室

・8/1 (火)、参加者数 18人
・対象：小学校4年生～中学生
・会場：新潟市北区公民館
・講師：今井さやか氏 (新潟市文化財センター文化財専門員)
頓所邦雄氏 (新潟市文化財センターボランティア)

(4) 第27回博物館まつり

・見る、聞く、触れるなど体験・実演コーナーの設置や、郷土芸能発表会を通して伝統文化を学ぶ。

・11/2 (木)～11/4 (土)
・参加者数 延べ580人

○催し物

・チャリティー骨董市 (11/2～4)
主催：チャリティー骨董市実行委員会
・実演・体験・チャレンジコーナー (11/3・4)
(消しゴムハンコ・ワラなべしき・竹とんぼ作りなどの体験、昔あそび、土器パズル、北区パズル、葛塚縞手織りの実演と体験)
・パッチワーク小物の販売
・郷土芸能発表会 (11/3) (P.2に詳細を掲載)
・超大筆パフォーマンス (11/4)
揮毫：小黒五稜氏 (書家)
・お楽しみ抽選会

○協力：伊豆名皓美、大月優子、大脇花子、倉島百合子、佐藤則子、成澤清子、橋本弘、早川ミナル、葛塚縞手織りの会、市民ガイド、新潟医療福祉大学レクア.コム部、菱湖会 (敬称略)

(5) ハンコで遊ぼう！

・石印材に名前や干支等を彫りオリジナル作品を制作。
・12/2 (土)、参加者数 16人
・対象：小学4年生以上
・会場：新潟市北区文化会館
・講師：伊豆名皓美氏 (書道講師・新潟県美術家連盟会員)

(6) 市民ガイド (常設展示ボランティアガイド) 研修

・スキルアップと情報の共有を図る。

○浦木東遺跡現地説明会

・11/11 (土)、参加者数 6人

○重要文化財日笹川家住宅ボランティアガイドとの交流会

・12/22 (金)、参加者数 7人

○新潟市歴史系博物館・資料館ボランティア交流会

・H30.2/1 (木)、参加者数 6人
・会場：新潟市岩室民俗史料館



土器作り教室 (北区公民館) 8/1



第27回博物館まつり ワラなべしき作り



第27回博物館まつり 消しゴムハンコ作り



市内博物館・資料館のボランティア交流会 (新潟市岩室民俗史料館) 2/1

(7) ふるさと学習

・学校教育や地域などと連携し、博物館資料の紹介や、展示見学の利用を図る。

○北区内の学校における博物館活用のための常設展示解説会

- ◆小中学校地域教育コーディネーターへの解説
 - ・11/8 (水)、参加者数 18 人
 - ・対象：北区の小中学校地域教育コーディネーター
 - ・講師：頓所洋一、市民ガイド 2 人
- ◆小学校長会研修会での解説
 - ・12/15 (金)、参加者数 13 人
 - ・対象：北区の小学校長
 - ・講師：頓所洋一、市民ガイド 5 人

○学校教育としての見学

- ◆五十嵐中学校「新潟市を知ろう」
 - ・10/19 (木)、1 年生 33 人
 - ・講師：曾部珠世、市民ガイド 4 人
- ◆南浜小学校「福島潟の干拓の歴史」
 - ・11/30 (木)、4 年生 10 人
 - ・講師：曾部珠世
- ◆笹山小学校「昔の道具とくらし、昔の農業」
 - ・12/7 (木)、3 年生 20 人
 - ・講師：曾部珠世、市民ガイド 3 人
- ◆木崎小学校「昔の道具とくらし」
 - ・1/18 (木)、3 年生 53 人
 - ・講師：曾部珠世、市民ガイド 4 人
- ◆太夫浜小学校「昔の道具とくらし」
 - ・1/25 (木)、3 年生 43 人
 - ・講師：曾部珠世、市民ガイド 4 人
- ◆太田小学校「福島潟の干拓の歴史」
 - ・2/1 (木)、4 年生 11 人
 - ・講師：曾部珠世
- ◆太田小学校「昔の道具とくらし」
 - ・2/8 (木)、3 年生 14 人
 - ・講師：曾部珠世、市民ガイド 3 人

○市民ガイドによるその他の団体及び個人への案内

- ・実施回数 延べ 33 回 (延べ 77 人)
- ・見学者数 延べ 302 人

○地域活動支援

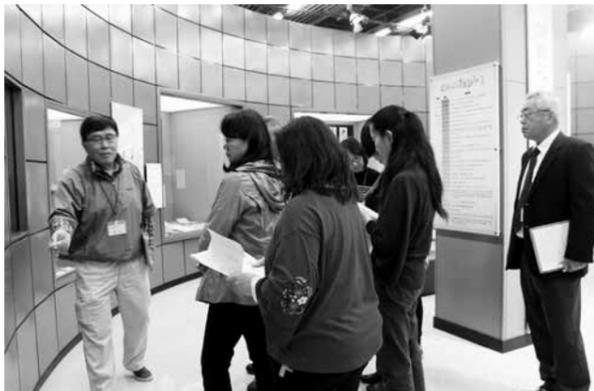
- ・講座講師の紹介
 - ・内島見老人クラブが主催する講座の講師として宮崎芳春氏 (当館前館長) を紹介。
 - ・朝日町万年青クラブが主催する講座の講師として宮崎芳春氏 (当館前館長) を紹介。

○出前授業

- ・新潟市文化財センター主催の出前授業「昔のくらし、昔のあそび」への協力
 - ・1/24 (水)、早通南小学校 3 年生 86 人



ふるさと学習 南浜小学校 4 年生 11/30



北区内の学校地域コーディネーターへの解説 11/8



市民ガイドによる常設展示案内 4/23



出前授業「昔のくらし、昔のあそび」(早通南小学校) 1/24

- ・講師：頓所洋一
- ・指導：頓所洋一、遠藤真理子

(8) レファレンス

- ・郷土史関連図書の閲覧、市民の郷土史学習サポート、資料調査協力
- ・博物館や大学など研究機関への協力

3 博物館実習、体験学習等受け入れ

(1) 博物館学芸員養成課程履修の実習受け入れ

- ・8/26 (土)～9/2 (土) 7 日間
- ・新潟大学 4 年生 1 人

(2) 高校生インターンシップ

- ・高校生の就業体験受け入れ
- ・8/1 (火)～8/3 (木) 3 日間
- ・新潟県立豊栄高等学校 2 年生 2 人

4 他機関との連携事業

○児童館利用者訪問

- ・常設展拡大企画「昭和のくらし展 ―「食べる」の道具たち―」併設の「昔の遊びチャレンジコーナー」の利用、及びその関連での利用。

①早通児童センター

- ・H30.2/3 (土)、参加者数 9 人
- ・指導：頓所洋一、遠藤真理子

②三ツ森児童館

- ・H30.3/10 (土)、参加者数 17 人
- ・指導：頓所洋一、遠藤真理子

○「潟」めぐりスタンプラリーの設置

- ・7/15～11/30
- ・主催：新潟市文化創造推進課

5 北区文化財保護事業

(1) 歴史・民俗資料等 整理事業

- 収蔵歴史資料 (古文書・行政文書) の再整理。
 - ・作業日数 延べ 15 日
- 民俗資料の整理 (10 月～H30 年 3 月)
 - ・作業日数 延べ 11 日
- 北区古文書解説研修会等によるボランティア
 - 歴史資料の中性紙封筒への入れ替え作業、及び郷土資料収蔵庫の民俗資料整理作業。

(2) 北区内郷土芸能保存団体情報交換会の開催 (特色ある区づくり事業)

- ・8/8 (金) 19:30～21:00

- ・参加者数 27 人 (職員 6 人を含む)
- 内訳：各団体代表 (16 団体)、アーツカウンシル新潟、北区長、北区地域課 (2 名)、博物館 (3 名)

・会場 新潟市北区文化会館第 4 練習室

- ・内容
 - ・博物館まつり、キテ・ミテ・キタク、出前公演会について
 - ・文化庁伝統文化親子教室補助制度について

(3) 公開・活用

○郷土芸能伝承支援事業

①「博物館まつり」郷土芸能発表会

- ・11/3 (金)
- ・出演団体 (出演順)
 - 新崎伊佐弥神楽保存会、内沼獅子舞保存会、松浜太鼓保存会、新崎甚句保存会、内島見神楽保存会、正尺神楽保存会、新崎樽ばやし連、豊栄郷土民謡保存会、長場神楽保存会、松浜盆踊り太鼓保存会、大瀬柳神楽保存会、高森いざや神楽保存会

②「キテ・ミテ・キタク」郷土芸能公演 (特色ある区づくり事業)

- ・11/23 (木)、参加者数 340 人
- ・会場：JRA 新潟競馬場
- ・出演団体 (出演順)
 - 尾山団地樽きち会、木崎三柱会、竹の通神楽連

③郷土芸能公演 出前公演会 (特色ある区づくり事業)

- ・10/28 (土)、参加者数 636 人
- ・会場：木崎小学校 (文化祭)
- ・出演団体 御山伊佐弥神楽保存会

④郷土芸能公演 出前公演会 (特色ある区づくり事業)

- ・11/3 (金)、参加者数 347 人
- ・会場：葛塚小学校 (地域文化祭)
- ・出演団体 他門神楽保存会

○文化財説明板修繕

- ・部分修繕 6 件 (水死亡霊塔ほか)

(4) 保護事業

- 収蔵資料くん蒸 H30.2・3 月
- 県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」保護事業
- 市指定無形文化財等の郷土芸能の記録 (VHS ビデオ) の DVD 化 (特色ある区づくり事業)

6 郷土資料収蔵庫整理作業

- 郷土資料収蔵庫内の民俗資料の整理・配架 (再掲)
- 収蔵資料のくん蒸 (再掲)

1 郷土芸能伝承支援事業（特色ある区づくり事業）

・北区に伝わる神楽等を地域の人に知ってもらうための発表の場と、後継者として期待される子どもたちへの伝承に向けた取り組みを支援する。

(1) 新潟市北区郷土博物館開館 50 周年記念「北区郷土芸能発表会」

・豊栄町博物館として 1968 年に開館した新潟市北区郷土博物館の開館 50 周年を記念し、北区文化会館で開催。

・主催：新潟市北区郷土博物館・新潟市北区文化会館

・11/25 (日)

・会場：新潟市北区文化会館

(2) 市指定無形民俗文化財郷土芸能の記録 (VHS ビデオ) の DVD 化

2 企画展等

(1) 常設展拡大企画「一所蔵作品公開— 美術のなかの自然展」

・前年度 3 月からの継続。「自然とはなにか」という問いを手がかりに、地域の人々の生と自然との関わりを提示する常設展と関連づけて開催。

・3/17 (土) ～ 6/17 (日)

○作品鑑賞会 (4/15、5/20、6/17)

(2) 平成 30 年度「新潟地震」巡回パネル展

・市民の防災意識向上のために、新潟市が行う啓発事業。市内各区を巡回。

・5/29 (火) ～ 6/12 (火)

・貸館事業 (主催：新潟市 (北区担当：地域総務課))

・会場：集会所

(3) 第 35 回菱湖会書展

・北区在住の書家 小黒五稜氏主宰の書道グループ「菱湖会」との共催展。

・共催事業 (主催：菱湖会・新潟市北区郷土博物館)

・7/13 (金) ～ 7/16 (月)

(4) 第 21 回松蔭賞書道展

・郷土出身の書家 弦巻松蔭にちなんで開催される競書大会。入賞作品 238 点を展示予定。

・7/28 (土) ～ 8/26 (日)

・対象：新潟市内の小学 3 年～中学生

・作品募集締め切り：7/4 日 (水)

(5) 第 12 回新潟市北区子ども科学展

・新潟市北区内の小中学校の児童・生徒が、夏休みに取り組んだ創意工夫、探究心にあふれる作品を発表・展示。

・9/22 (土) ～ 10/8 (月)

・対象：北区内の小・中学生

・部門：模型・発明工夫・標本・自然科学写真

(6) 常設展拡大企画「弦巻松蔭の若き時代—創作への道— (仮称)」

・上田桑鳩に師事した在京時代 (1936-45) をはさんで、自己の書の確立をめざして学書、模索した弦巻松蔭 (1906-95) の葛塚在住時代 (-1955) の作品を展示。

・11/17 (土) ～ 12/16 (日)

(7) 常設展拡大企画「昭和のくらし展 3」

・今では使われなくなった道具から、北区の昔の様子を紹介する企画の第 3 回展。体験コーナーを設置。

・H31.1/4 (金) ～ 5/6 (月)

3 講座・教室、レファレンス等

(1) 開館 50 周年記念講演会

・北区の歴史や文化を学ぶ。

(2) 第 28 回博物館まつり

・見る、聞く、触れるなど体験・実演コーナーなどを通して伝統文化を学ぶ。

・11/3 (土) ～ 11/4 (日)

(3) 市民ガイド研修

・市民ガイドのスキルアップと情報の共有を図る。

(4) ふるさと学習

・学校教育や地域などと連携し、博物館資料の紹介や、展示見学の利用を図る。

(5) レファレンス

・郷土史関連図書の閲覧、市民の郷土史学習サポート、資料調査協力など。

・博物館や大学など研究機関への協力

(6) 博物館学芸員課程履修の実習生受け入れ

・実習期間：8/23 ～ 9/1 の 7 日間

(7) 横井の丘ふるさと資料館の管理

(8) 郷土資料収蔵庫の管理運営

・環境整備・虫の侵入防止・空調管理

・民俗資料整理作業 (台帳化、配架)

(9) 刊行物の販売

4 北区文化財保護事業

(1) 調査

・歴史・民俗・写真資料等 整理作業

(2) 公開・活用

・郷土芸能発表会 (再掲)

・文化財説明板修理

(3) 保護育成

・市指定無形民俗文化財郷土芸能の記録 (VHS ビデオ) の DVD 化 (再掲)

平成 29 年度入館状況

月別	北区郷土博物館 入館者数 (人)	横井の丘ふるさと 資料館 入館者数 (人)	主な行事
4 月	510	5	
5 月	427	29	「羽越水害復興 50 年記念事業」巡回パネル展 —併催 常設展拡大企画「北区の水害展」5/27 ～ 7/1
6 月	683	16	「羽越水害復興 50 年記念事業」巡回パネル展 —併催 常設展拡大企画「北区の水害展」5/27 ～ 7/1 歴史みに講座 6/3 (20 人)・6/10 (16 人)
7 月	1,198	18	「羽越水害復興 50 年記念事業」巡回パネル展 —併催 常設展拡大企画「北区の水害展」5/27 ～ 7/1 (計 846 人) 第 34 回菱湖会展 7/13 ～ 7/17 (457 人) 第 20 回松蔭賞書道展 7/29 ～ 8/27
8 月	1,135	5	第 20 回松蔭賞書道展 7/29 ～ 8/27 (計 1,249 人)
9 月	1,302	19	第 11 回新潟市北区子ども科学展 9/16 ～ 9/24 (1,006 人)
10 月	575	9	歴史みに講座 10/21 (24 人)・10/28 (26 人)
11 月	1,015	2	第 27 回博物館まつり 11/3・4 (のべ 580 人) 常設展拡大企画「昭和のくらし展 —「食べる」の道具たち」11/25 ～ 2/12
12 月	337	0	常設展拡大企画「昭和のくらし展 —「食べる」の道具たち」11/25 ～ 2/12
1 月	510	0	常設展拡大企画「昭和のくらし展 —「食べる」の道具たち」11/25 ～ 2/12
2 月	323	0	常設展拡大企画「昭和のくらし展 —「食べる」の道具たち」11/25 ～ 2/12 (計 1,091 人)
3 月	492	0	常設展拡大企画「所蔵作品公開 美術のなかの自然展」3/17 ～ 6/17
合計	8,507	103	

・12/28 ～ 1/3 は年末年始のため休館 ・横井の丘ふるさと資料館は現在休館中

■館外事業参加者数 合計 1,409 人
 ・郷土芸能伝承支援事業 (キテ・ミテ・キタク、出前公演会) 1,323 人
 ・出前授業 (市文化財センター共催事業) 86 人

寄贈資料紹介

平成 29 年度、次の方々より貴重な資料の寄贈を受けました。厚くお礼申し上げます。

【書資料】

杉山 明夫様 (西区) ……弦巻松蔭書 臨書手本 8 点、弦巻松蔭書 創作手本 2 点など計 12 点
 片岡 光子様 (新発田市) ……上田桑鳩「寿声庵」
 師尾 守 様 (新発田市) ……弦巻松蔭作品写真資料アルバム 1 冊

【美術資料】

師尾 守 様 (新発田市) ……佐野鶯撰「山水図」、水沢子鳳「達磨図」計 2 点

【歴史資料】

川崎 喬 様 (北区) ……川崎直二作成 木崎村小作争議六十周年記念式典来賓のあいさつの原稿、など計 9 点
 河合 清 様 (北区) ……新潟県立新潟県立関係図
 米田謙之輔様 (千葉県) ……建國かるた 1 点

【民俗資料】

鈴木 正 様 (北区) ……唐箕 1 点、田植え杵 1 点、箕 1 点 (体験用)
 早川ミハル様 (北区) ……コテ 4 点
 栗橋 俊道様 (北区) ……ビクター製ステレオ一式
 里村 洋子様 (北区) ……農良着一式 (体験用)

【図書】

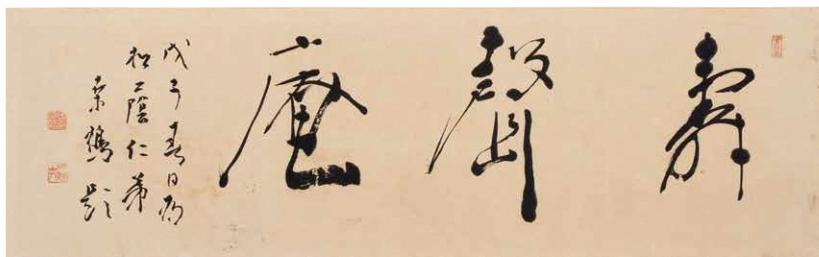
新発田市郷土研究会 (新発田市) ……新発田市郷土研究会編「新発田市郷土誌 第 45 号」
 関 雅之様 (新発田市) ……関雅之著「上越市大潟区下舟津浜の製塩遺跡について—波浪侵食により出現し消えた遺跡の画像記録—」
 新潟郷土史研究会 (西区) ……新潟郷土史研究会編「郷土新潟 第 57 号」
 杉山 明夫様 (西区) ……長坂金雄編「書之友」第 2 巻第 12 号、森田子龍編「墨美」など計 31 冊
 片桐 元 様 (西区) ……新潟県高等学校教職員組合平和教育研究委員会編「新潟県内における韓国・朝鮮人の足跡をたどる」1 冊
 齋藤 光夫様 (東区) ……上田桑鳩著「書の話 第二巻」、上田桑鳩著「書の創作手引」など計 14 冊
 阿部 紀夫様 (北区) ……奥田みのり著「若槻菊枝 女の一生 新潟、新宿ノアノアから水俣へ」
 高橋 剛 様 (北区) ……豊栄短歌会編「ふきのとう 第 31 号」、内沼のむかしばなし編集部編「内沼のむかしばなし」計 2 冊
 三輪 建二様 (東京都) ……三輪建二著「祖父 三輪寿壮 大衆と歩んだ信念の政治家」
 賀川豊彦記念松沢資料館 (東京都) 和田武宏著「JA 共済の源流をたずねて—賀川豊彦と JA 共済—」、金井新二・奥田知志 他「雲の柱 第 31 号」など計 3 冊

【寄贈のお願い】

当館では、資料の充実を図るため収集活動を行っています。ご寄贈いただける資料がありましたらお知らせください。

平成29年度 新収蔵書作品紹介

当館では、市民の芸術文化振興を図るため、新潟市北区にゆかりの深い作家の作品を収集・公開しています。



うえだ そうきゆう
上田桑鳩
(1899-1968、兵庫県生まれ)
「寿声庵」
1948年、墨・紙、23.5×75.5cm

この作品は、上田桑鳩が、戦後まもない1947年暮れから翌年正月にかけて、門弟^{つるまさしゅういん}松陰の生家(葛塚町)に滞在した折、書室に庵号を与えて揮毫したものです。桑鳩は、'自由な創作を促す啓蒙活動を全国に展開するため、雑誌『書的美』を創刊する構想を抱いていました。師の訪問の目的は、

東京から帰郷したままの松陰に対し、新設した展覧会への参加を促すとともに、この活動への協力を依頼することだったようです。書論、臨書指導のみならず、美術鑑賞なども盛り込んだ先進的な『書的美』は、実際、寿声庵で書教育を開始した松陰の拠り所となったのです。(神田直子)

トピックス

高橋清のモニュメント「希望に向かう人」



「希望に向かう人」1990年

作品寸法 330(高さ)×158(幅)×165(奥行) cm

台座寸法 90(高さ)×325(幅)×250(奥行) cm

作品の材質 アフリカ産黒御影石、ブラジル産赤御影石、徳島産青石、岡山産万成石

台座材質 大島石、庵治玉石

総重量約14 t、高さ4m(台座含む)を超える巨大な石彫「希望に向かう人」が、当館(当時豊栄市博物館)の敷地に設置されたのは、1990年11月1日のことです。市制施行20年にふさわしいモニュメントを求めている旧豊栄市に対し、豊栄ロータリークラブが作品を購入して寄贈することによって、ようやく実現した大事業でした。

制作者、高橋清(1925-1996)は、新潟県南蒲原郡森町村(現三条市)で生まれ、現在の見附市で育ちました。中之島村立中之島尋常高等小学校(現長岡市立中之島中央小学校)、新潟県立新潟中学校(現新潟県立新潟高等学校)で学び、1945年に海軍兵学校を卒業。

戦後、彫刻を志し、1952年に東京美術学校(現東京藝術大学)を卒業した高橋は、オルメカ、マヤ、アステカなどのメソアメリカ古代文明の造形に強くひかれ、1958年にメキシコに渡ります。そこで11年間、研究、制作、後進の指導にあたり、メキシコオリンピック(1968)のモニュメントも手がけました。帰国後は、金沢美術工芸大学で制作指導を行いつつ、国内外で制作活動を展開。1989年には、新潟市庁舎前庭の彫刻群「希望」を制作し、新潟市美術館で個展も開催されました。

自然(宇宙)信仰から生み出された、古代の神秘的で原初的な造形に触発された高橋にとって、堅固で恒久性を有する石は永遠性を意味し、石彫表現とは「内に命を秘めた石に、人間の祈りの形を与える」ことでした。その仕事は、敗戦間際に毎日「死」と背中合わせで過ごした過酷な体験を経て、戦後に生き続けていることへの戸惑いと、「生きる自由があること」の感動と希望を抱いて彫刻に向かった高橋の「生」そのものといえましょう。

1989年、高橋は、豊栄市に依頼された作品の構想を練るため、福島潟を訪れ、「自然の厚みと素朴な温かさ」と感じました。そして、自然の中で生きる人々の純粋さ、そこに宿る大らかなたくましい生命力を、昇る太陽をみつめ、静かに祈る人間像の造形「希望に向かう人」に込めたのです。(神田直子)

*北区役所だより(H29.8.20号)「ふるさと自然と文化」欄の掲載原稿に、一部修正を加えました。